**21 『無名草子』**

また、「何の筋と定めて、いみじと言ふべきにもあらず、あだにはかなきことに言ひ慣らはしてあれど、夢こそあはれにいみじくⓐおぼゆ。かに①絶えにし仲なれど、夢にも強からで、とし道もたち帰ること多かり。昔の人も、ありしながらの面影を定かに見ることは、ただ②この道ばかりりの、『はなきねの夢ならで』と詠ませへるも、いとこそあはれに侍れ。」など言ふ人あり。

また、「あまた、世にとりていみじきことなど申すべきにはあらねど、涙こそいとあはれなるものにて侍れ。情けなきの柔らぐこともⓑ侍れ。色ならぬ心のうち現すもの、涙に侍り。いみじくまめだちあはれなるをすれば、③少しも思はぬことにはかりにもこぼれず。にはかなきことなれど、うち涙ぐみなどするは、心にしみて思ふらむほどしられて、あはれに心深くこそ思ひ知られ侍れ。

の御使ひにての弁の、『くを見るこそあはれなりけれ』と詠みけむ、ことわりにぞ侍るや。」と言ふ人あれば。

語　注

関守＝関所の番人。ここでは恋路を邪魔する者の意。

もと来し道もたち帰ること多かり＝昔のの思い出がよみがえることも多い。

上東門院＝天皇の中宮で藤原道長の娘、。

今はなきねの夢ならで＝「逢ふことも今はなきねの夢ならでいつかは君をまたは見るべき」彰子が一条天皇の死を悲しみ、詠んだ歌。

亭子の帝＝天皇。実際は天皇であった。

公忠の弁＝。

泣くを見るこそあはれなりけれ＝公忠が「思ふらむ心のうちは知らねども泣くを見るこそあはれなりけれ」と奏上した話がある。

問1　二重傍線部ⓐ「おぼゆ」・ⓑ「侍れ」を、本文に合った活用形に活用させよ。（6点）

ⓐ〔　　　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　　　〕

問2　傍線部①を例にならって品詞分解し、文法的に説明せよ。（8点）

（例）　咲き ／　けり

カ行四段活用 過去の助動詞

　　　連用形 　　　終止形

絶　え　に　し

問3　傍線部②について、（6点×2）

⑴　「この道」とは何を指すか。本文中から抜き出せ。

〔　　　　　　　〕

⑵　「この道」にできることの例として、本文中で挙げているものを次から二つ選べ。

ア　はるか昔の有名な人物の面影を見ることができる。

イ　昔の逢瀬の思い出を、よみがえらせてくれる。

ウ　死んだ人の生前のままの面影を見ることができる。

エ　昔通った懐かしい道を、関守に邪魔されずもう一度通ることができる。

オ　上東門院の和歌のような素晴らしい和歌を詠むことができるようになる。

〔　　　〕　〔　　　〕

問4　傍線部③の部分を、言葉を補いながら口語訳せよ。（6点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問5　本文において「涙」はどのようなものと表現されているか。本文中から十二字で抜き出せ。（8点）

〔　　　　　　　　　　　　　〕

問6　本文では「涙」をどのようなものとしてとらえているか。最も適当なものを次から選べ。（10点）

ア　たいそうわずらわしく、面倒なもの。

イ　正直な人や善良な人の心を惑わすもの。

ウ　満たされない思いを満たすもの。

エ　情け深い武士の心を奮起させるもの。

オ　人の心中を推し量ることができるもの。

〔　　　〕

練習問題〈敬語〉

次の傍線部の敬語の種類を、それぞれ後から選べ。

①　よきに奏してたまへ、啓したまへ。 （　　　　）

②　ここなる物取りはべらん。 （　　　　）

③　つかうまつる人の、 （　　　　）

④　強ひ聞こえさせたまひけんほどなど、 （　　　　）

⑤　大殿ごもりぬるもまためでたし。 （　　　　）

⑥　けふはほかへおはしますとて渡りたまはず。 （　　　　）

⑦　い目を見候ひつる。誰にかは愁へ申し候はむ。 （　　　　）

⑧　「少納言よ、の雪はいかならん。」と仰せらるれば、（　　　　）

ア　尊敬語

イ　謙譲語

ウ　丁寧語

【解答】

問1　ⓐおぼゆれ　ⓑ侍り

問2　絶え（ヤ行下二段活用・連用形）／に（完了の助動詞・連用形）／し（過去の助動詞・連体形）

問3　⑴夢　⑵イ・ウ

問4　ちっとも心に感じていないことにはかりそめにも涙はこぼれない。

問5　色ならぬ心のうち現すもの

問6　オ

【練習問題解答+口語訳】

①イ《よいように天皇に申し上げてください、中宮にも申し上げてください。》

②ウ《ここにある物をとりましょう。》

③イ《給仕をし申し上げる人が、》

④イ《是非にと申し上げなさっただろうご様子など、》

⑤ア《お休みになってしまわれたのもまたすばらしい。》

⑥ア《今日はよそへいらっしゃるというので、おいでになりません。》

⑦ウ《つらい目にあいました。誰に悲しみを申したらよいでしょうか。》

⑧ア《「清少納言よ、香炉峰の雪はどうであろうか。」とおっしゃるので、》